

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地球環境保全のために、拡大生産責任者としてサプライチェーン全体における環境負荷低減に対する取り組みが重要であることを認識している。</li><li>● ステークホルダーから、Scope3の情報開示を求められている。</li></ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 環境報告書、Web等で、環境活動の結果として開示する。</li><li>● 該当する12のカテゴリに対して、一定期間(3年程度)は傾向を把握することとし、今後の環境負荷低減活動の施策立案に活用していく。</li></ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● カテゴリ11(製品の使用)では、毎年の排出量実績を削減していくことにより、ユーザーに環境性能をアピールできる。</li><li>● 環境部門が主体とはなるが、他部門との連携が深まり、一体となって環境負荷低減活動に取り組むことができる。</li></ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社内の環境担当部門である環境センターが把握している情報と、関連部門(経理、物流等)、グループ会社、関連会社から入手した情報、公表されている環境情報とから、環境センターで算定している。</li><li>● 算定方法が複数種類あるものについては、どの方法が実態に近いのか、より正確なのか、について今後検討していく。</li></ul>

	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カシオでは、コアコンピタンスである 小型・軽量・薄型・省電力技術を活かし、省資源・省エネ性能に優れた商品開発を実施している。なかでも環境性能が顕著なものは、「カシオグリーンスター商品」として認定している。また、この「カシオグリーンスター商品」の 販売比率を高めるため、具体的な数値を環境行動目標として設定し活動している。</li> <li>● カシオでは、物流工程で発生するCO2の削減に取り組んでいる。国内外で物流拠点から取引先への直送により、輸送距離を短縮している。拠点間の輸送には環境負荷の小さい鉄道を積極的に利用し、モーダルシフトを推進している。デジタルカメラ、電子辞書等では梱包設計の最適化を図り、積載効率を改善し、輸送物量を削減している。</li> <li>● カシオグループのみならず、サプライチェーンを含めたScope3 CO2排出量の削減活動が重要である。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算出精度の向上</li> <li>● 算出に用いる係数等の見直しの時期</li> <li>● 環境負荷削減のための具体的な施策の立案</li> </ul>
<p>□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 外部機関のコンサルテーションを受講し、算定手法、原単位の利用方法を理解し、</li> <li>2) 15個のカテゴリそれぞれに対して、該当するのかもしれないのかを見極め、</li> <li>3) 該当するカテゴリに対して、算定可能な方法で算定を行う。</li> <li>4) さらには、自社の企業活動をより正確に反映できる計算方法を検討する。</li> </ol>

## 3

## カシオ計算機株式会社

2012年度 実績値

カテゴリ	算定方法		排出量		備考	
	活動量	原単位	tCO2	比率		
Scope1			5,472	1.0%		
Scope2			41,506	7.3%		
Scope3			(Scope3は全体の91.7%)			
1	購入した製品・サービス	消耗品、原材料等の調達量	購入量当たりの排出原単位 (排出原単位DB ver 2.0)	321,278	56.8%	
2	資本財	連結対象会社全体での設備投資金額	設備投資金額当たりの排出原単位	23,598	4.2%	
3	Scope1,2に含まれない 燃料及びエネルギー活動	購入した電気、各種燃料の量	種別ごとの排出原単位 (CFPコミュニケーションプログラム 基本DB ver1.01)	2,925	0.5%	
4	輸送、配送(上流)	国内、海外の出荷物流量	重量、輸送距離、輸送手段別の排出原単位	74,854	13.2%	
5	事業から出る廃棄物	廃棄物種類別の排出量	種別ごとの排出原単位	621	0.1%	
6	出張	国内、海外の従業員数	従業員当たりの排出原単位	1,229	0.2%	
7	従業員の通勤	従業員への交通費支給額	交通費支給額当たりの排出原単位	1,106	0.2%	
8	リース資産(上流)	全国25箇所のG-Shockストア	売場面積当たりの排出原単位	227	0.0%	
9	輸送、配送(下流)					検討の結果、除外
10	販売した製品の加工					非該当
11	販売した製品の使用	種別ごとの製品数	製品使用:対応年数における排出原単位 電池交換を伴う製品については、 その電池の製作のために排出される量も 加算する	66,039	11.7%	
12	販売した製品の廃棄	製品本体、及び容器包装材の排出量	種別ごとの排出原単位	14,689	2.6%	
13	リース資産(下流)	他の企業体にリースしている資産 (建物)での排出量	相手先企業での排出量	7,690	1.4%	
14	フランチャイズ					非該当
15	投資	持分法対象会社、および特定投資 株式、みなし保有株式を保有する 企業での排出量	投資先企業の排出量に、持分法比率、 株式保有率を乗じて算出	4,613	0.8%	
				565,847	100.0%	

## サプライチェーンCO2排出量の全体像

□ 算定結果

3ページに記載した内容をグラフ化したものです。C1～C15がScope3の排出量になります。

